

研究・調査報告書

報告書番号	担当
2 2 8	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Gender differences in role of alcohol in fatal injury events. 致死的外傷発生におけるアルコールの役割の男女間相違	
執筆者	
Sjogren H, Valverius P, Eriksson A.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Eur J Public Health. 2006 Jun;16(3):267-71.	
キーワード	
アルコール、死亡、性別、外傷	
<p>要 旨</p> <p>背景： 目的は、致死的な外傷発生に対するアルコールの介在に、男女間で違いがあるかを検討することである。</p> <p>方法： National Board of Forensic Medicine の法医学データベースおよび法毒性学データベース、National Board of Health and Welfare の入院登録から情報を入手した。アルコールは、以下の場合に外傷発生に関連すると考えられた：死亡例が「アルコール中毒である」という何かしらの徴候が見られる場合、根本にある死亡原因がアルコール関連の場合、死亡例が死亡に先立つ 3 年の間にアルコール関連の入院診断をされた場合、剖検時に死亡例の血中アルコールが陽性である場合。スウェーデンにおける医学・法学的剖検(1992-1996)の全外傷例が解析された(男性:11,156、女性:4,471)。</p> <p>結果： 男性と比較すると、女性は故意の外傷イベントによって多く死亡し、血中アルコールが陽性、血中アルコール濃縮が低く、アルコール関連の病歴があった。女性において故意の死亡はそうでないものに比べて、有意にアルコール関連のものが多かった。アルコールに関連する死亡は、男性の方が女性に比べ有意に高い割合であった。</p> <p>結論： 女性における外傷のほぼ 3 分の 1 と、男性の外傷のほとんどはアルコール関連であり、多くは男性の問題であるにも関わらず、女性においてアルコールは、致死的外傷で重要な役割を果たすことが示された。</p>	